

長生村の好きなところを いまなら言える気がする。

東京での就職が決まったアカリ。

「やっぱり行きたくない」と、拗ねていたアカリを

ハルは駅まで連れて行き、東京行き電車に押し込む。

仕事が忙しくなり、二人はあっという間に連絡をとらなくなった。

あの時、応援して送り出してくれたハルに、

どんな顔をして会えばいいんだろう……。

ハルと二人で作った長生村のCMを見たプラネタリウム。

“長生村の好きなところ”を迷わず答えていたハル。

アカリは、プラネタリウムを出ると、

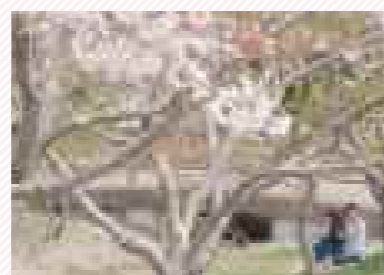
やっとハルへ電話をすることができた。

本作で登場する春の特産品やイベント



菜の花

春の冒頭に登場。黄色い花が一面に広がる菜の花畑は壮観で長生村の春の風物詩でもある。村内では多くの菜の花畑を見ることができる。



桜

高校時代のアカリとハル、大人になったアカリとテツヤのシーンで登場。桜並木は、尼ヶ台総合公園全体を囲むように広がっている。



八積駅(やつみえき)

東京へ旅立つアカリをハルが見送るシーンで登場。まっすぐに伸びる線路は、どこか郷愁を感じる。長生村内にあるJR東日本外房線の駅。



プラネタリウム

アカリとハルが作った長生村のCMを見ているシーンで登場。長生村文化会館2階にあるプラネタリウム室。投影予定は公式サイトでご確認を。



最終章 長生村の春

アカリ役

谷口 蘭

TANIGUCHI RAN

テツヤ役

新井 敬太

ARAI KEITA

自然体のアカリとホッとする 存在のテツヤ、実際のおふたりは？

— 撮影から約2年、今日来られた 長生村の印象は？

谷口: いつ来ても懐かしい感じがして、長生村の平坦で見晴らしがいいというところも印象に残っています。私は愛媛県出身で、最近実家に帰っていないので落ち着きますね。

新井: のどかだし、一年を通して撮影したこともあって、なにか田舎のばあちゃん家に来たような感覚でホッとします。

— 一番印象に残っているシーンは？

谷口: 私は夏の盆踊り大会。屋台のご飯が好きなので、いっぱい作って

いただいたものを延々食べていましたね。

新井: そうだね、たくさん食べたよね。僕は、アカリのお父さんと一緒にボートに乗って青のりを収穫したことや、青のりを干す体験ができたことが面白かったです。でもその収穫用のボートが網を引くときにくるくる回って、流されてしまっていて、スタッフさんに『その場所は違います〜』って、教えてもらったりしながら撮影していました。

谷口: そうなの、知らなかった。

新井: ボートが二人乗りだからバランスをとるのが難しくて。でも落ちず

に、大丈夫だった。

谷口: でも落ちてね。

新井: まあ、落ちて大丈夫です(笑)。

— 好きなセリフや、 役の好きなのところは？

谷口: 好きなセリフは「違うの、ただちょっと会いたくないだけ」ですね。アカリはダメなところがあるけれど……でもそこが好き。

新井: 僕は、テツヤのセリフではないんですけど、アカリのお父さんに「この家ってWi-Fiとんできます？」って聞くと「Wi-Fi? 虫か?」と答えてくれるセリフが好きですね。映画を見

アカリはダメなところがあるけれど……でもそこが好き。

PROFILE

谷口蘭(たにくちらん)
1990年生まれ。愛媛県出身。国内外の雑誌や広告、CM、MVなど幅広く活躍中。女優としても活動して居り、代表作に映画「あえかなる部屋 内藤礼と、光たち」など。

てくれた友人も、お父さんが可愛いって、言っていました(笑)。

— お相手の役へ かけてあげたい言葉は？

谷口: テツヤ、たいへんな時期だから頑張ってるね。WEBデザイナーは在宅でお仕事できるしね。

新井: これからは在宅で仕事ができるっていうのは求められるよね。都心にいなくても仕事ができるリモートワークが増えてきているので、アカリ連れてきてくれてありがとう。

谷口: まあね(笑)。

— 長生村の好きなのところは？

谷口: 私はやっぱり食べ物かな。住むなら食べ物がおいしいところがいいですね。

新井: なにが一番おいしかった？

谷口: 長生村はおいしいものがいっぱいあったけれど、試写会でいただいたアイガモ農法のコシヒカリおいしかったね。

新井: お米ね、おいしかった。

谷口: あと、ながいきそば、青のりも。
新井: ながいきそばもおいしかったね。青のりはお正月のお雑煮のシーンでたくさん入れて、おいしかったね。トマトもおいしかった。



谷口: 一番が決められないね(笑)。

新井: そうだね。僕も長生村のそういった食べ物と、高い建物がないから、空が広いところが好きですね。そこは都心と違っていいなあと思いますし、海があるのもいいですね。

谷口: 海の散歩とかもいいよね。でも冬は行かないかな?もし長生村に住んだら冬は何する?

新井: 冬でも海に行くと思うけどね。山へ行く?春は、桜がキレイだったよね。

谷口: ほんと満開でキレイでした。

新井: あと、高校生の時のアカリとハルの菜の花畑のシーンめっちゃくちゃキレイだった。

谷口: そう、ちょうど夕陽が差していたね、キレイだった。

— 実生活で長生村に住んだら、 どんな暮らしをしたい?

谷口: 家庭菜園をして、自分で作った野菜を食べて、のんびり暮らしたいですね。田舎暮らしの方が暮らしを丁寧に楽しむことができそうで贅沢だと思います。

新井: 僕は長生村でイベントがある時に撮影に参加させてもらったというのがありますが、夏が好きで盆踊りとかイベントが楽しいですね。自分の手に職をつけながら働いて、農業体験もできる、この映画のテツヤのような生活って、ほんとうにいいなあと思いました。

— これから映画を ご覧になれる方へのメッセージ

谷口: この映画は、田舎から都会に出て、挫折して帰ってきた人に共感していただけたと思います。それと、誰かみてもどこか懐かしい気分を味わえる映画だと思いますので、そこを楽しんでいただけたら、それだけで私はうれしいですね。

新井: 長生村のPRというだけでなく、「門真国際映画祭2020」でも最優秀作品賞を受賞した作品なので、長生村も知っていただけますし、映画としても楽しんでいただけたらうれしいです。

PROFILE

新井敬太(あらいけいた)
1987年生まれ。埼玉県出身。映画「映像研には手を出すな!」、ドラマ「遠藤憲一と宮藤官九郎の勉強させていただけます」、「相棒19」第6話では物語の鍵となる金髪刺青男を演じた。公開待機作に英勉監督作3本目の出演となる「東京リベンジャーズ」、橋本一監督「劇場版シグナル」では得意なアクションシーンも披露する。



長生村で生活するなら、
テツヤのように暮らしたい。

アカリ役(高校時代)

溝口 奈菜

MIZOGUCHI NANA

ハル役(高校時代)

手島 実優

TESHIMA MIYUU

制服で海に行けたことを一緒に喜ぶ姿はまるでほんとうの幼なじみ。

— 撮影から約2年、今日来られた長生村の印象は？

手島: 八積駅に着いた時、“ここです、ここでアカリを見送りました”って、懐かしい気持ちになりました。

溝口: そう、あの駅だなんて。長生村はいい意味で変わっていませんでした、久しぶりに来て安心感がありました。

— 一番印象に残っているシーンは？

手島: 私は東京へ行くアカリを見送るシーン。

溝口: あのシーン、私は撮影中には見られなかったから、試写会で見た時に、ハルはこういう風に見送ってくれていたんだって思って、ジーンって感動した。

手島: そうだね、電車に乗って行っ

ちゃったからね。電車は3回ぐらい乗った？

溝口: そう、ひと駅乗って行って車で戻っては撮影したね。それと、海のシーンが本当に部活の時間だった。カメラが大きいので落とさないかドキドキしながら、でも実際に自分で撮ることもできて楽しかったな。

ハル、アカリの背中を押してくれてありがとう。



— 好きなセリフや、役の好きなところは？

手島: ハルは、おせっかいをやきすぎないところが好き。アカリが東京に行くときも“大丈夫、大丈夫”って、過保護にしないところとか。そういう友達が私にもいて、背中を押してもらえたら、高校生活はもっと良かったかもなって。

溝口: アカリはハルの前では「東京へ行きたくない」という不安を言っていたので素直なコだなと思った。大人になっても、自分が会いたいと思うまで会わないことができるのも、本当に仲のいいハルだからできると思うし、アカリは自分にも素直な人でした。

— お相手の役へかけてあげたい言葉は？

手島: アカリ、いつでも帰ってこいって感じ。でもアカリは自分が納得のいくまで帰らないから、えらいなって思った。

溝口: ハルには背中を押してくれてありがとうって言いたい。ハルが駅まで連れていってくれて、一生懸命見送ってくれ

たから東京にやっとならなくて良かった。ハルみたいな存在がいるかいないかで、東京でがんばれる度合いも違うと思う。

— 長生村の好きなところは？

溝口: 景色の見晴らしがよくてキレイなところですね。ドローンの映像もひらけているからすごく癒されます。

手島: 映画内で長生村の好きなところを村の方にインタビューしたら、皆さんきちんと教えてくださって、村のことを悪く言う方が一人もいなかったことが印象的でした。

溝口: 食べ物ではアイガモ農法のお米がふっくらしていておいしかった。袋にアイガモのイラストが書いてあるのも可愛くて好き。

手島: 私は青のりを自分で巻いたおにぎり。とってもおいしかった。

溝口: あれ、すごくおいしかったね。長生村はどの季節にもおいしいものがあってすごいよね。

— 実生活で長生村に住んだら、どんな暮らしをしたい？

手島: 出身地の群馬県は海がないので、海のシーンを撮影した時に、海があると、こんなに楽しいんだあって思った。

溝口: 一緒一緒〜(笑)。カジュアルに海に行くのが憧れ。私の出身地も岐阜県なので、海に行くには車を出して、よし行くぞって感じだから。

手島: 旅行に行く気分じゃないといけないうのに、放課後にふらっと行けるもんね。

溝口: 制服で海に行くことが初めてのシチュエーションで。でも海の近くに住んでいるコたちは、ふらっと行けていいなって思った。

手島: 放課後に海に行くことができなかった二人だから、それが映画で叶え

られました(笑)。

溝口: 制服で海っていうのがいい。ほんと、映画で叶えられました(笑)。

— これから映画をご覧になれる方へのメッセージ

手島: 私は、夢をあきらめて地元に戻ってきて、“こう思われるかもしれない”っていう考えとか全然いらなと思います。それもその人の生き方だし、いつでも帰れて、東京も地元も好きっていうのが素敵だと思うので、映画を見た方が自分の地元のことを思い出したり、東京も地元も好きだなんて思ってくれたりしたら、いいなと思います。

溝口: たまには帰ろうと地元を思い出すきっかけになったり、田舎ならではの心地よさや落ち着きを感じて癒されたりしてもらえたらいいなと思いました。なにかを成し遂げていないと帰れないではなくて、もっと気軽に帰ってもいいんだと思ってもらえたらうれしいです。

東京も地元も好きっていうことが素敵だと思う。



PROFILE

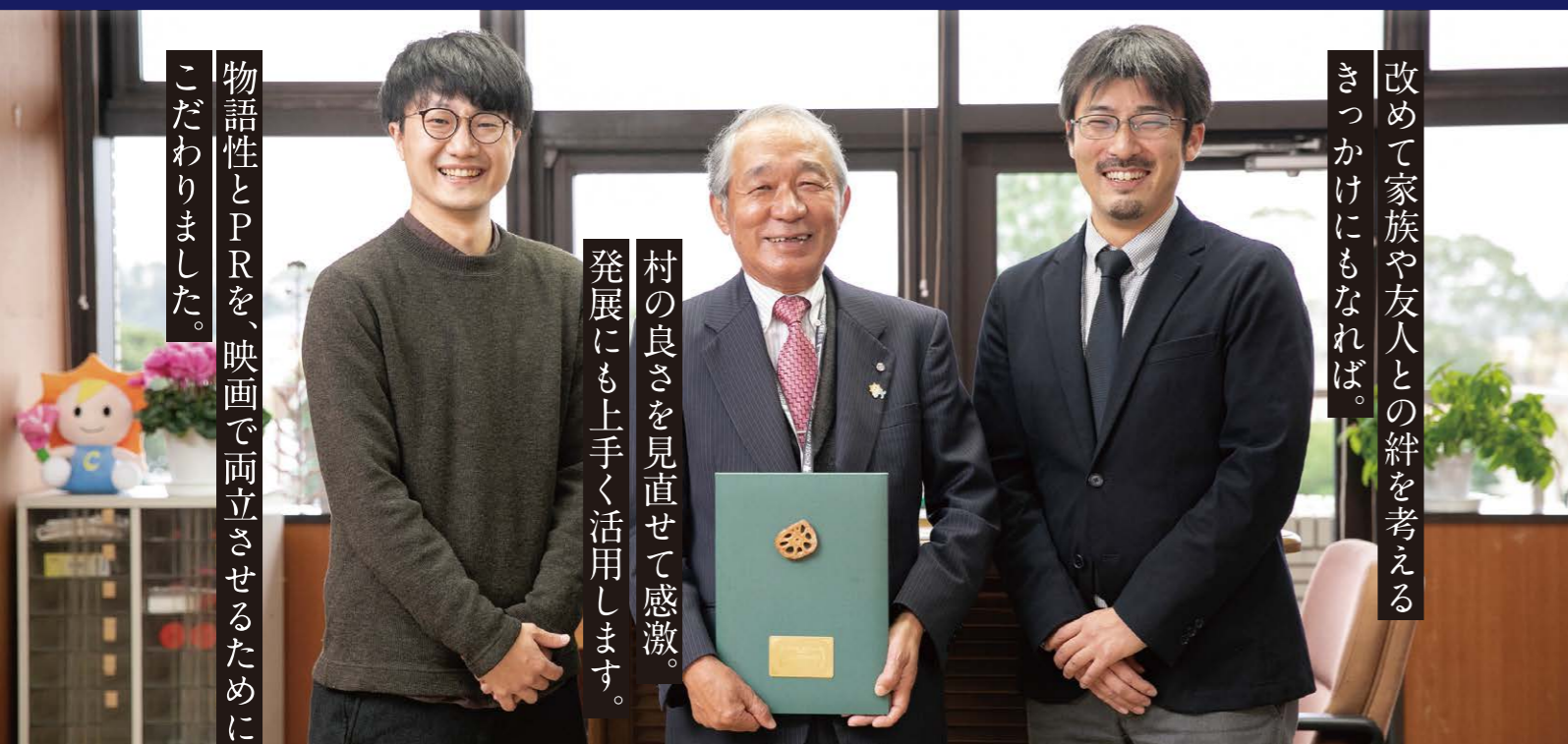
溝口奈菜(みぞぐち なな)
1997年生まれ。岐阜県出身。映画「万引き家族」「思い、思われ、ふり、ふられ」「のぼる小寺さん」「アルキメデスの大戦」、ドラマ「愛なき森で叫べ」(NETFLIX)「映像研には手を出すな」(MBS)「すじぼり」(U-NEXT)など、話題作に多数出演。2021年は映画「Bittersand」の公開が控える。

PROFILE

手島実優(てしま みゆう)
1997年生まれ。群馬県出身。映画「転がるビー玉」「21世紀の女の子」、「明日、また、会える。」では主演を務めるなど、多数出演。TVCM「NTTドコモカードGOLD温泉旅行篇」「アスカグループ保育情報どっとこむ」をはじめ、MV、舞台、テレビ番組、モデル、ラジオなど、多彩に活躍している。

監督 安田 瑛己 YASUDA EIKI
 長生村長 小高 陽一 ODAKA YOICHI
 プロデューサー 伊藤 尚平 ITO SHOHEI

長生村の魅力を再発見できた映画。
 続編と村の発展への期待が高まりました。



— 『長生ノスタルジア』の感想、
 村の方や周りの方の反応は？

小高村長：長生村の良さを見直すことができ感激しましたね。試写会に来られた村民も感激したと思いますし、夢見てくれたのではないですかね。つい最近も「続編はいつ作るの？」と聞かれましたよ。続編は人と人とのつながりや助けあい、それを支える役所の仕事などを盛り込んだのもいいね。

安田監督：うれしいですね。そういうリアルな生活を映画にしたいとも話していました。

伊藤P：そう、日々の営みをね。早速、次の構想をお持ちしないと(笑)。

小高村長：門真国際映画祭2020で最優秀作品賞(観光映像部門)受賞、

国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル&アジア2020では観光庁長官賞のファイナリストに選出されて、たくさんの電話があり、TVでも取り上げられました。

伊藤P：国内・海外を含めて信頼感をもって見られることを考えて、PR動画として「職」と「ライフスタイル」をストーリーに組み込んでもらい、長生村で過ごす日々を思い描けるようにしました。

安田監督：他のPR動画との差別化としても、まず映画として成立させ、そこにPR要素を混ぜこんでいき、村の方に喜んでもらえるような映像にしたいと思いました。映画が始まったと思えるように、始まりはあえて雨のシーンにしました。文化会館の入り口

を水浸しにしても、村の担当の方が「いつか乾くから大丈夫」とノリノリだったことがうれしくて印象的でした。

— 一番好きなシーンは？

小高村長：最初の田んぼのシーンで、田舎すぎないところが気に入っていますね。あの田んぼの絨毯を渡る風が『おいしい』んですよ。ふるさと納税をしてくれた方へお電話する時は、「おいしいその風をぜひ吸いにきてください、電車で東京から約1時間半ですよ」と伝えます。

安田監督：やはり故郷に帰ってきたという描写は田園風景をドローンで撮るべきだと考えていたので、村長に一番好きと言っていただけののはとてもうれしいです。僕はラストのプラ

ネタリウムでのシーンが一番好きです。それと、ハルが長生村の好きなところを一人きりの教室で答えるシーンは、何度見ても、うるっときてしまいます。

— 撮影中のエピソードは？

安田監督：ご自宅を3日間と畑や青のりの漁場をお借りし、劇中で登場する食事も準備していただいた村民の方がいなかったら、この映画は成立しなかったと思います。それと、夏の盆踊りに実際にお邪魔して撮影した時も皆さん本当に優しく対応してくれました。

— 長生村の特産品について

安田監督：劇中にも出ていた「ながいきそば」がおいしかったです。

伊藤P：私は市場に出回らない貴重な青のりをたっぷり入れた長生流のお雑煮をぜひ食べてみたかったですね。

小高村長：映画を見た方が「ながいきそば」や「アイガモ農法コシヒカリ」に興味をもって来て、特産品需要の伸びがありますね。お米はふるさと納税の返礼品として増え続けています。

— 長生村の住みやすさや
 働きやすさは？

小高村長：なんとか子どもたちを引き留めたい、あるいはIターンということも考え、4年前から村内の小中学校にうかがって、子どもたちの村への要望を聞いています。結果、街灯の60カ所増設や尼ヶ台総合公園にバスケットゴール、小学校はグラウンドの整備やエアコンの設置などを行いました。我々の仕事は、子どもたちの将来の選択肢を増やしてあげることも重要です。また八積駅周辺の整備では、今後のリモートワーク化に合わせた計画も進行中なのでご期待ください。

— 長生村の好きなところは？

小高村長：気候が穏やかで経済も安定しているし、せかせかすぎずしていない。ただ田舎特有のおせっかいがなくなっちゃったね。でも移住者とも融合して、よい関係を築いていると思います。

安田監督：実家に帰ってきたような安心感と懐かしさがあるところが好きです。住むとしたら、東京での仕事は継続して、村の産業に関わり合いながら、焦らずのんびり暮らしたいですね。

伊藤P：私もリモートで仕事をしながら、空いた時間で海への散歩や子どもと遊ぶなど、絵に描いたようなスローライフを送りたいです。

— これから映画をご覧に
 なられる方へのメッセージ

伊藤P：ぜひ物語の登場人物になった気分で、長生村で過ごしてみてください。奇しくもコロナ禍で家族や友人との絆が再定義された時代になりましたが、映画を見て、ご自身の価値観がどこにあるのかを省みるきっかけにしてもらえればうれしいです。

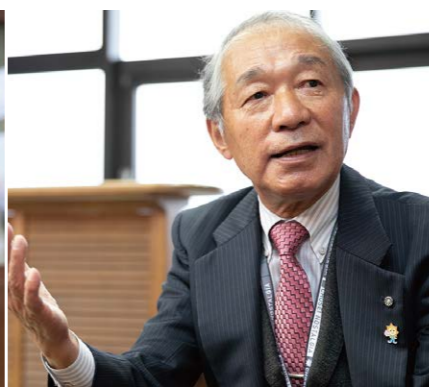
安田監督：村民の方は、この映画を通じて改めて村の魅力を再発見して自分たちの村に誇りをもってもらいたいです。そして、長生村から離れてしまった方は、この映画で村のことを思い出したり、かつての親友に連絡したりしてほしいなと思います。また初めて長生村を知った方は、ぜひ遊びに来てください。

小高村長：今日は続編の構想も話しちゃったけれど(笑)。『長生ノスタルジア』とふるさと納税を組み合わせ活用しながら、「夢がある、生きがいを感じる、住んで良かった長生村」をさらに目指していきます。



PROFILE

安田瑛己(やすだ えいき)
 1987年生まれ。東京都出身。『長生ノスタルジア』監督。映像ディレクターとして活動する傍ら、映画制作を行い、監督作は国際短編映画祭SSFF&ASIA、ゆうばりファンタスティック映画祭など多数の映画祭で入選している。



PROFILE

小高陽一(おだか よういち)
 1952年生まれ。長生村議会議員(5期)、長生村青少年相談員連絡協議会会長などを経て現職。「ふるさと納税」では村長独自の取り組みも行い、2019年度は全国の村で1位の約8億円を集める。バンド演奏、釣り、絵画鑑賞が趣味。



PROFILE

伊藤尚平(いとう しょうへい)
 1981年生まれ。北海道出身。『長生ノスタルジア』プロデューサー。行政機関や地方自治体の観光プロモーション映像や大手メーカーの会社紹介や採用映像などの企画・提案を担当している。

キャスト気分でロケ地を巡ろう!



徒歩で巡る村内編

田畑の広がる道でのどかさを感じながら、ウォーキングでロケ地巡りをしませんか。八積駅、長生村文化会館のプラネタリウム、尼ヶ台総合公園の散策をゆっくりとお楽しみください。

※長生村コミュニティセンター(八積駅併設)、長生村交流センター、尼ヶ台総合公園にはレンタサイクル(無料)を設けています。

おいしい風を味わうウォーキングコース

所要時間1時間27分 距離7.1km

- ① 八積駅 → 5分(400m)
- ② 長生村文化会館プラネタリウム → 9分(700m)
- ③ 長生村立長生中学校 → 19分(1.6km)
- ④ 大関堰 → 23分(1.9km)
- ⑤ 尼ヶ台総合公園 → 31分(2.5km)
- ① 八積駅

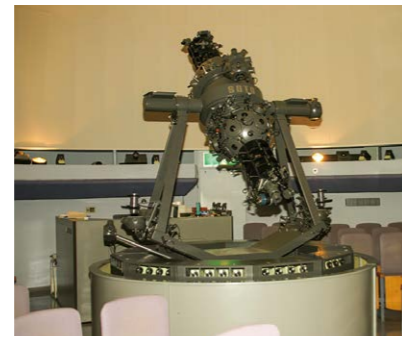


01 八積駅
(やつみえき)
STATION



JR東日本外房線の駅。長生村コミュニティセンターと合築されている地上駅。東京へ旅立つアカリをハルが見送るシーンで登場。まっすぐに伸びる線路は、どこか郷愁を感じる造り。

02 長生村文化会館
プラネタリウム
PLANETARIUM



雨宿りをしたアカリが迷い込むシーンや、高校生のアカリとハルが作った長生村のCMを見ているシーンで登場。

※投影予定や休館日は公式ホームページかお電話にてご確認ください。

03 長生村立
長生中学校
JUNIOR HIGH SCHOOL



長生村内にある中学校で、高校時代のアカリとハルの放送室でのシーンや、ハルが教室で自撮りをするシーンが撮影された。

05 尼ヶ台
総合公園
GENERAL PARK



春・夏・秋のシーンで登場。スポーツや憩いの時を楽しめる総面積10.5haの公園。隣接する尼ヶ台直売所では「ながいきそば」や「アイガモ農法コシヒカリ」の購入が可能。

2021年
6月
OPEN
長生村
交流センター
COMMUNICATION
CENTER



村の玄関口となる八積駅前に立地する交流拠点。来訪者や住民の集いの場。施設内では、映画のノベルティグッズ販売のほか、ラウンジには映画の展示ブースも設けられている。

コスモス畑
COSMOS FIELD



10月頃には尼ヶ台総合公園や長生中学校の周辺など、村の各所のコスモス畑が見頃。